

～表紙絵の植物紹介～

【ホトギス】

斑点のある花びらの柄が鳥のホトギスの柄に似ている為この名前が付けられました。この花は崖や傾斜地など日当たりが少し弱い場所を好みますが、初夏から秋まで花を咲かせるために「永遠にあなたの物」という花言葉が付けています。□マンチックですね。



(文・小林)

◆◆◆スタッフからの一言◆◆◆

●今年の梅雨明けは観測史上最も早く、連日酷暑が続いた前橋でした。さすがに連日の猛暑日は堪えますね。皆さまご自愛くださいませ。赤城に赴任して2年目となり、多少なり地域の方々と繋がりも深まりましたが、この「繋がり」を更に活かし、体験活動の場や機会の提供の充実に努めたいと思います。(穴澤)

●先日「森のパワーを探してみよう」の講師として施設の周辺を散策しました。子供たちは大人の目線では発見できないことをたくさん発見していました。子供たちのきらきらした反応を肌で感じ、もっと研鑽を積み重ねたいと思いました。(山下)

●私は、23年前にも当時の名称「国立赤城青年の家」に勤務していました。その頃は建物の老朽化がひどく3K「暗い・汚い・固い(ルール等)」の赤城とよく言われていました。今はエアコン付きの宿泊室・温水便座のトイレ・野外炊事がいつでも出来る屋根付き広場・宿泊棟別の鮮やかな壁の色等々、素晴らしい施設に生まれ変わり私も目を眩りました。これからも輝き続ける施設であると確信しています。(笛木)

交流の家の取組紹介

【野外炊事(特別プログラム)】

交流の家では、昨年度、野外炊事の新たなプログラムとして、火起こし体験・お切りこみ・防災食の3プログラムを開発し、今年度より実施しています。



火起こし体験では、火打ち石や舞錐(まいぎり)、虫眼鏡などを使って火を起こします。どうすれば火がつくのかをみんなで考え、仲間と協力して火起こしをします。起こした火はそのまま野外炊事のかまど用に使います。

「お切りこみ」体験は、群馬の伝統食をつくる新たなプログラムです。野外炊事で、郷土料理に親しむことができます。

防災食のプログラムでは、ポリ袋ご飯やポリ袋オムレツ、空き缶ご飯を作ります。災害時でも簡単にご飯を作れることを体験します。



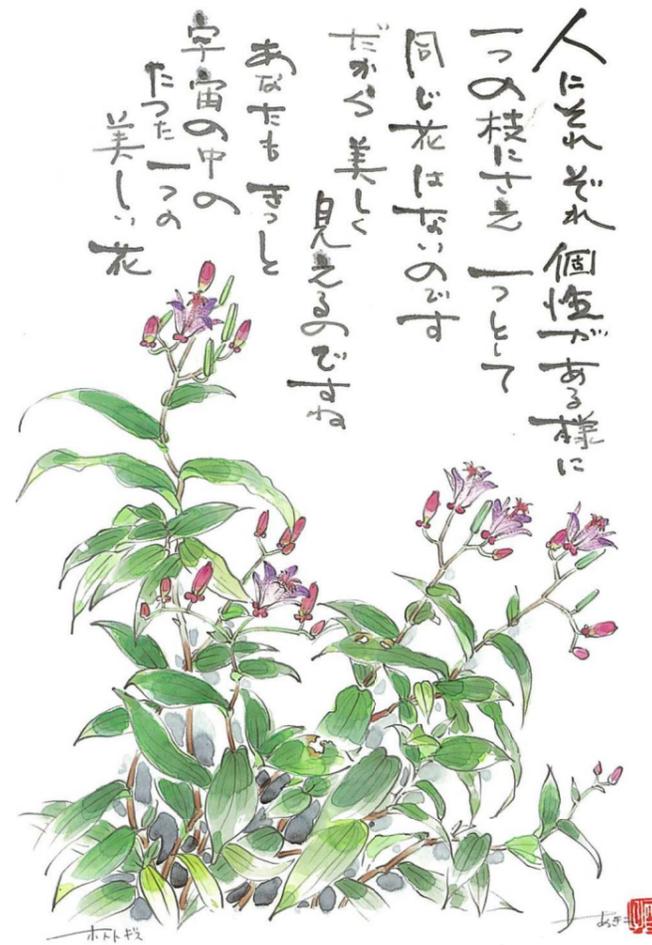
野外炊事に関連付けたプログラムです。ぜひ体験してみたいかがですか。(梁河)

重要なお知らせ

日頃からカラゴロリをご愛読いただきまして誠にありがとうございます。春号vol.38から、ホームページを中心に掲載することとなりました。郵送をご希望の方は下記アドレスまでお名前・住所をお送りください。(E-mail:akagi@niye.go.jp) お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

風と太陽のくにからの通信誌

カラゴロリ



次号は、10月1日発行予定!

「交流の家HP」「Facebook」で当所の情報を更新中

体験の風をおこそう



国立赤城青少年交流の家 <http://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

検索

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp



『幼児の運動プログラムの環境整備』

6月は、入り口の紫陽花に出迎えられ出勤しました。四季折々の花に出迎えられる施設は素敵だと思います。

今年度、幼児の運動プログラムにおける安全性・利便性を向上する環境整備に着手いたします。「プレイパーク」は、以前松林でしたが、松枯れ後篠竹が生え、幼児が安全に活動を行えない状況です。篠竹除去及び幼児が安全に木登り等が出来る樹木を植え、幼児の運動プログラムの環境整備をしています。

実際に活用できるのは、平成31年度からになると思いますが、その広報も含めて今年度は、幼児関連事業を3本実施いたします。

一つ目は、10/20~21に実施する幼児を含む親子事業。二つ目は、東武鉄道さん他と連携して11/23~24に実施する幼児を含む親子事業。三つ目は、幼児教育指導者の方々を対象に1/11~12に研修会を実施します。ただいま、開催要項作成中ですので、楽しみにお待ちください。

所長 松村 純子

【国際交流！】

日独青少年指導者セミナー

今年度も、5月17日(木)から22日(火)まで「日独青少年指導者セミナー」を行いました。この事業は、40年以上歴史のある交流事業で、文部科学省の委託を受けて実施しています。目的は、日本とドイツの青少年教育の現状や取り組みの理解、意見交換を通して青少年指導者の資質や能力の向上を図ることなどです。赤城での受け入れは2年目で、団長と8名のドイツ人が研修に来ました。



昨年度に引き続き「困難を抱える青少年などの支援・子供の居場所」をテーマに研修を行いました。

前半は児童養護施設希望館や愛育乳児園の視察や、群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センターで、教員養成課程や地域と連携した大学の取り組みについてディスカッションを行いました。

その後、ホームステイを行い、ざわざわ森byとんとん広場でファミリーとのお別れBBQパーティーを行いました。

後半は日光東照宮の見学や、児童相談所で施設見学や群馬県における児童養護の現状についてディスカッションを行いました。

ドイツ団は、日本の青少年教育の現状や取り組みを理解し、併せて日本文化に触れることができ、とても充実した研修となりました。(文：田村(佳))

【赤城から開く、新しい扉！】

ボランティア養成セミナー

6月2日(土)～3日(日)と6月16(土)～17日(日)の日程で平成30年度「ボランティア養成セミナー」を行いました。



1回目は、群馬大学と連携し、多くの群大生が参加し、2回目は、高校生や大学生、社会人など幅広い年齢層の方が参加しました。どちらとも、所長自ら「青少年施設の現状と運営」という講義を行いました。この講義では、青少年教育施設についての全般的な説明が行われました。国立青少年教育振興機構が目指している「体験活動を通じた青少年の自立」や「早寝早起き朝ごはん」運動、「体験の風をおこそう」運動の概要について学ぶことができました。また、講義「青少年教育」では、子供を取り巻く現代社会の状況やそれを踏まえた体験活動の重要性について学ぶことができました。

そして、前橋北消防署白川分署の署員を講師として招いた「救急救命法」では、救命措置の重要性を講義と演習を通して学ぶことができました。要救助者の発見から救急車やAEDの手配、胸骨圧迫、人口呼吸など救命の連鎖に関わる一連の具体的な行動を一つひとつ真剣に取り組むことができました。

ボランティア活動を行う上で必要な安全管理について野外炊事を通して学びました。1回目では、「カレーづくり」、2回目では、「ピザとポトフづくり」を行いました。どちらとも食材を扱う際の衛生面やかまどによる火を扱う際の安全面について「ボランティアを行う時の視点」で、野外炊事に取り組みました。準備から片付けまで仲間と声をかけながら意欲的に取り組むことができました。(文：横山)

これからの動き

下記の事業の詳細はこちらまでお問い合わせください
⇒TEL：027-289-7224(国立赤城青少年交流の家)。ホームページにも随時掲載します。

■イングリッシュキャンプ
(中学生対象)
8月12日(日)～14日(火)2泊3日

体験を通して感じたことや考えたことを英語で表現し、お互いに伝え合うことで、英語をコミュニケーションツールとして、積極的に使っていくとする意欲を高めるキャンプです。

■自然体験活動指導者養成事業
9月7日(金)～9日(日) 2泊3日

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者(NEALリーダー)を養成します。

■イングリッシュアドベンチャー
(小学生対象)文科省委託事業
9月15日(土)～16日(日)：
小学校4年生対象
11月24日(土)～25日(日)：
小学校5年生対象

赤城の自然の中で、英語を使いながら体験活動を行うことで、英語を使ったコミュニケーションと体験活動推進を図るプログラムです。

【利用者からのお手紙や活動の様子を紹介します】

利用者みなさま

5月9日から10日の1泊2日、交流の家を利用していた小千谷市立片貝中学校のみなさんからお礼の手紙をいただきました。

2日目のAAP(あかぎアドベンチャープログラム)では、研修指導員の佐藤順子さんと中嶋陽平さんのおかげで、「誰かが出来ないことがあったら協力して助ける」ことが大切なのだと感じる事ができたようです。

退所する最後の日には、廊下や洗面所をゴミのないように清掃し、布団をきちんとたたんでくれました。

周りの人にやさしい気持ちのある小千谷市立片貝中学校のみなさんがこれから益々活躍されることを交流の家職員一同願っています。



(生徒のみなさんからのお礼の手紙もいただきました。)

あかぎをつかう！

あかぎアドベンチャープログラム(AAP) 指導料金の改定

現在、「あかぎアドベンチャープログラム(AAP)」の指導料金として、1グループにつき3時間8,000円、5～6時間16,000円を負担していただいておりますが、平成31年4月1日以降のご利用から、1グループにつき3時間10,000円、5～6時間20,000円に変更させていただきます。

何卒、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。(文：丸山)

改定前	改定後 (H31.4.1～)	備考
8,000円 (3時間)	10,000円 (3時間)	1グループ
16,000円 (5～6時間)	20,000円 (5～6時間)	15人程度



国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方が交流の家の魅力を紹介します。

交流の家を見る

【森のパワーを探してみよう！】

タイトルをみて「森のパワーってなに?」と思っただ方がいらっしゃるかもしれませんね。

このプログラムは、3つのキーワード「森はたくさん生き物を育てている」「森は山を守っている」「森は人の役に立っている」を手がかりにして、森の中を歩きながらそのパワー(動き)を見つけ、森の大切さを感じるというものです。キツキツの穴や大きなナメクジ、たわわに実った山桑の実など、豊かな森の中で息づく森のパワーを、子どもたちは目を輝かせて見つけていきます。また“五感”を使い感覚を研ぎ澄ませ、目には見えない、森のにおいや温度の変化などを感じとります。そして、山の環境保全についても、自然を体感することで深く学ぶことができます。



“知識”が“知恵”に変わる体験プログラム。森のパワーを通じ、自然と人間とのかかわりを考えるきっかけづくりとして活用されてみてはいかがでしょうか？

(文：蓼沼 忍(研修指導員))

赤城山ツーリズム 第10回

「～赤城山ツーリズムを通じた、元気で楽しい地域づくり～」

NPO法人赤城自然塾 渡辺 聡

赤城山は季節によって表情を大きく変え、春の桜、初夏の様々な種類のつつじや盛夏の避暑、秋の紅葉、冬の氷湖など、季節ごとに違う魅力があり、歴史や文化、農や食などの様々な交流資源も多く存在しています。そして、赤城山とその周辺地域には、観光客が四季を通じて各地から訪れています。一方で、せっかく多種多様な人や店・施設が存在するにもかかわらず、その情報が知られていないことや効果的な活用がされていないことが課題となっています。

私たちは、昨年3月に設立した「赤城山ツーリズム地元推進協議会」を機軸とし、地域の多くの人たちが赤城山ツーリズムに関わり、バラバラの取り組みを連携して行い、地域力を結集することで、もっと楽しく元気の地域にできるのではないかと考えています。

地域の交流資源に磨きをかけ、地域に誇りを持ち、「ぜひ、楽しい赤城山にのんびりと遊びに来て下さい!」と、全国、そして世界に向け発信し、多くなお客様にお越しいただけるよう、正に、赤城山ツーリズムを通じた、元気で楽しい持続可能な地域づくりに取り組んでいきます。